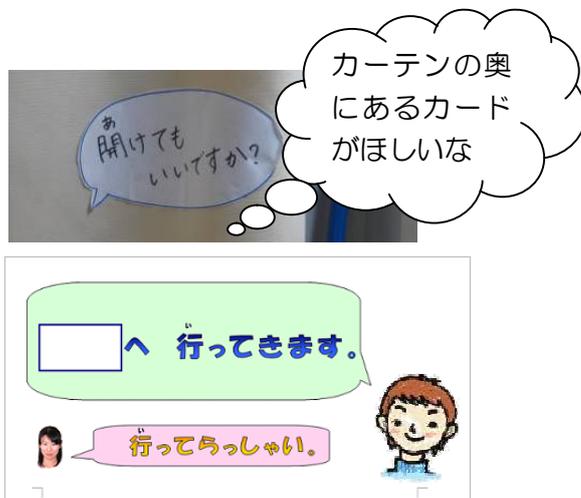
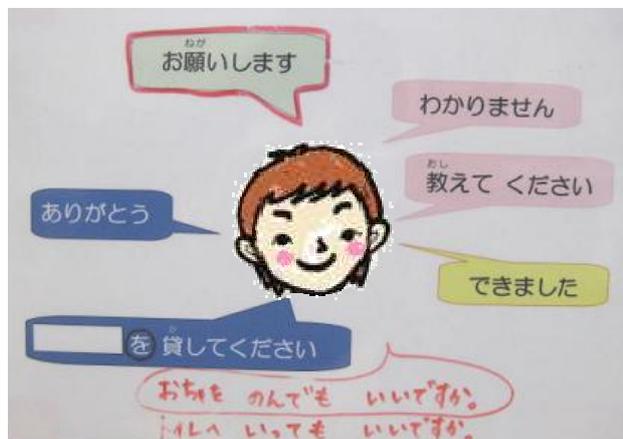


A-1 実態に応じた指導

◆ 場面に応じた言葉を視覚的に示す

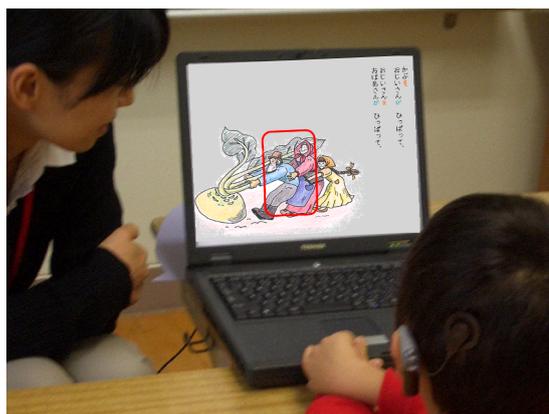
場面に応じた言葉が使えるよう、必要となる場所に覚えてほしい言葉を示しておくことで、適切に使えるようになった。また、何度も繰り返すうちに状況と言葉が結びつき、似たような別の場面においても、覚えた言葉を用いるようになった。



◆ 絵・手話・音声・文字等を対応させる

教師との会話は、音声だけでなく、文字や絵、手話等の視覚的なコミュニケーション手段を併用し、それぞれを対応させながら理解できるようにしている。

国語科の物語文では、デジタル絵本を作成し、コンピュータを用いて読み聞かせを行ってきた。音声や手話に合わせて文や絵を1つずつ表示したり、内容に合わせて絵に動きをつけたりすることで、文字との対応を図ってきた。あらすじをよく理解し、文字にも抵抗感を示すことなく物語を楽しむことができた。教科書を繰り返し音読するようになり、本文を暗唱しながら登場人物になりきって動作化する様子も見られた。



◆ 視覚的な手がかりを用意しておく

友達や教師の名前、校内の場所などを写真と文字で示したところ、文字や手話で表すことが難しい場合でも、学校でのできごとを教師に伝えるようになった。カードを動かしたり、図を指さしたりして表現するのを見て、教師は「運動場で鬼ごっこをしてきたんだね」などと言葉に直して聞かせるようにしている。

友達や教師の名前を覚え、教師もこれらを指し示しながら話をするので、話す内容も確実に理解することができるため、安心した学校生活を送ることにもつながっている。

